

JA全農えひめ情報

# みくに～と

2024  
4 - May  
Apr. 5

## 特集

「持続可能な農業と食の提供のために“なくてはならない全農”であり続ける」ため6つの全体戦略をすすめています



愛媛のはだか麦は36年連続  
生産量日本一！



▲カメラ目線（？）で写真に収まる  
19ヶ月齢の母牛「ふくしらゆき号」  
と小田原さん



▲物置と化していたが、小田原さん  
の手で清潔な牛舎によみが  
えた



▲ブラッシングに母牛も気持ちよ  
さそう



▲自然の風景に溶け込むリノベー  
ション牛舎と倉庫

高知県境の中津明神山を仰ぐ山あいの牛舎で、JA松山市久万畜産部会長の小田原洋一さん（47歳）は母牛11頭を飼育しています。人工授精で生まれた子牛を約9ヶ月間育てて野村臨時家畜市場に出荷し、肥育農家へ引き渡す繁殖農家です。

小田原さんは宮城県仙台市からのIターンです。整備士だった頃に田舎暮らしを夢見て各地を探し、ご本人が言うところの流れ着いた久万高原町で12年が経ちました。縁もゆかりもない地で、まずは住まいを世話され、「田があるぞ」と3日目には田を耕していったそうな。畠を借りてピーマンを育て、忙しくも順調に出荷するうち、「牛を飼わんか、牛舎も譲る」と声がかかります。動物好きの小田原さんは「ラッキー！」と快諾し、ピーマン畠を減らしつつも忙しい日々は加速していきます。

「作業も多いがやりたいことをやっているので毎日が楽しい」、「牛もどろどろの床ではかわいそう」と、特に清掃は念入りに愛情をもって飼育しています。子牛の誕生に喜びも多いのですが、ただ一度、分娩まであと一週間という時に膀胱した母牛。獣医と手で押し込み、縫合するも状況は厳しく、動けなくなった母牛はやむなし、どうにか車に乗せて食肉処理場へ。到着すれば、最後の力を振り絞り自分で歩く後ろ姿をただ見つめるしかなかつた小田原さん。筆舌に尽くし難い感情でした。命の連鎖の中で今できることが精いっぱいする日々がこれからも続いていきます。

## 黒毛和牛の繁殖 (上浮穴郡久万高原町)



2024年4-5月号

## CONTENTS

### 全農グループの経営理念

私たち全農グループは、  
生産者と消費者を安心で結ぶ  
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

### 今月の表紙



ぼくは愛媛のはだか麦シンボルキャラクター「スーパームギムギマン」。ナンバーワンポーズでアピールするのは、もちろん愛媛県産のはだか麦。生産量日本一を36年も続けているんだ。みそ、焼酎、粉もの、お菓子、いろんなものに使われて、体によくて、香ばしくて、おいしくて。

汗ばむ季節は黄金色の麦畑を眺めながら、麦茶とはだか麦あらで一服したいところだね。

●表紙：はだか麦  
米田 こよ実（イラストレーター）

\*「あぐり～ど」は、「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（Lead）する」という意味と「心を一つにする（Agreed）」という意味を込めています。

農の風景－応援！農業人－ Vol.239

黒毛和牛の繁殖（上浮穴郡久万高原町）

②

〈特集〉

「持続可能な農業と食の提供のために“なくてはならない全農”であり続ける」ため6つの全体戦略をすすめています

⑩

人事異動

⑪

機構図＆ライン管理職等配置

⑫

ふるさと ESSAY VOL.307

音楽と農業の蜜月

中岡 りょういちさん

⑭

THE・ねっとわーく

⑯

TOPIC NEWS

⑳

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉 春ばれいしょ

JA全農えひめ

ホームページ

<https://www.zennoh.or.jp/eh/>



■お取り寄せ・JA全農えひめ直販ショップ

<https://www.ja-town.com/shop/c/c7201/>

※愛媛の旬の農産物と加工品をお届けします！

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<https://www.zennoh.or.jp/eh/food/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆えひめ飲料

<https://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://ai-pax.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<https://fresh-ranran.jp/>

◆ひめライス

<https://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

◆JAえひめ物流(株)

<https://www.jat-ehime.co.jp/>

— 食の安全・安心を  
— 産地から食卓へ。

# 育てるのは、 いるのは、 未来です。

J A全農えひめは「持続可能な農業と食の提供のために「なくてはならない全農」であり続ける」という目指す姿の実現に向け、営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組んでいます。

また、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋となり、安全で新鮮な国産農畜産物をお届けします。



# 特集 食と農を未来へつなぐ



**「持続可能な農業と  
食の提供のために、『なくては  
ならない全農』であり続ける」  
ため6つの全体戦略を  
すすめています。**

## J A全農令和6年度計画

本会は、今次中期（令和4～6年度）事業計画において、2030年の全農グループのめざす姿として「持続可能な農業と食の提供のために、『なくてはならない全農』であり続ける」と定め、6つの全体戦略「①生産振興、②食農バリューチェーンの構築、③海外事業展開、④地域共生・地域活性化、⑤環境問題など社会的課題への対応、⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築」に取り組むこととし、これらを着実にすすめています。

## 経営計画

1. 取扱計画  
2030年のめざす姿の実現に向けて、スケールメリットの発揮や実需者ニーズに対応した商品提案、グループ会社と連携した総合営業の強化などにより、取扱高は4兆9、200億円を計画します。
2. 収支計画  
システム関連費用の増嵩などにより事業管理費は増加するものの、取扱高の増加による事業総利益の確保により、当期剰余金は95億円とします。
3. 剰余金処分計画  
剰余金処分は、利益準備金19億円、出資配当金23億円（2%）、任意積立金58億円を計画します。
4. 財務計画  
(1) 自己資本計画  
準備金・積立金は、事業開発積立金、情報システム開発積立金、農業開発積立金の取崩しによる減少5億円、および利益準備金19億円、任意積立金58億円の増加を計画します。また、繰越剰余金23億円を計画します。
5. 要員計画  
最適な事業体制の構築に向けた中長期的な観点から、新卒採用や外部人材の登用などにより、6年度末の職員数は8,000名程度とします。

## J A全農 令和6年度取扱計画

(単位：億円、%)

年 度 事 業	6年度計画	5年度計画	4年度実績	5年度 計画比	4年度 実績比
米穀農産事業	6,798	6,566	6,737	104	101
園芸事業	12,107	11,756	11,207	103	108
耕種生産事業	8,162	8,908	8,779	92	93
畜産酪農事業	13,306	12,634	13,751	105	97
生活関連事業	8,827	8,337	9,132	106	97
合 計	49,200	48,200	49,606	102	99

## 投資計画

生産振興や食農バリューチェーンの構築等に向け、農畜産物の流通拠点の取得などを計画し、265億円とします。

# 2030年に向けた令和6年度事業計画

## 中期（令和4～6年度）事業計画

### 中期計画策定時の情勢認識

- ・国内人口の減少・高齢化、農業就業者人口の加速度的な減少
- ・耕作放棄地の拡大、1経営体あたりの耕地面積増加
- ・単身世帯・共働き世帯の増加、食の簡便化ニーズやeマースの拡大
- ・新型コロナウイルス感染症による生活様式・消費形態の変化
- ・海外人口の増加、穀物・資材原料などの国際的な調達競争激化
- ・SDGs（持続可能な開発目標）や「みどりの食料システム戦略」への対応
- ・事業環境の変化や事業拡大に対応した人材育成が必要
- ・JA経済事業の基盤強化が急務

### 2030年のめざす姿

持続可能な農業と食の提供のために  
“なくてはならない全農”であり続ける

### 2030年に向けた全体戦略

#### ①生産振興

TAC活動の強化や革新的な技術等による生産性向上、JA出資型法人への出資など、生産基盤の維持を最重要課題として取り組みます。

#### ②食農バリューチェーンの構築

集荷から販売の一貫したバリューチェーン構築と国産原料を使用した商品開発、消費者への情報発信により、食料自給率と生産者所得向上に貢献します。

#### ③海外事業展開

海外ニーズをふまえたマーケットインやアライアンス、投資とリスク管理による輸出拡大、輸入原材料の安定調達、海外事業の成長戦略をすすめます。

#### ④地域共生・地域活性化

生活インフラの整備や再生可能エネルギーの普及など、地域のくらしや自然を守り、地域経済の活性化を支援します。

#### ⑤環境問題など社会的課題への対応

環境負荷低減や地域循環農業に向けた総合的・段階的な取り組み、カーボンニュートラルに向けた未来型の商品・技術開発をすすめます。

#### ⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

多様な人材の確保や業務・事業体制の再構築、財務・投資の最適化、DX戦略の構築、ガバナンスの強化などにグループが一体となって取り組みます。

## 令和6年度事業計画の具体策

今次中期（令和4～6年度）事業計画の仕上げの年として、中期計画で策定した6つの全体戦略を着実にすすめるとともに、事業環境の変化をふまえた具体策を実践します。

### ①生産振興

- ア. 生産者の生産性向上やコスト低減など最適な生産に向けた提案
- イ. 担い手・家族経営への支援強化および地域の農畜産物の生産支援
- ウ. 農畜産物の生産拡大・品質向上に向けた革新的な技術・商品開発と実証・普及
- エ. 地域の農業用施設の整備と効率的な配送体制の構築

### ②食農バリューチェーンの構築

- ア. 農畜産物流通に必要な物流体制・インフラの整備
- イ. 多様な販売チャネルによる国産農畜産物の消費拡大
- ウ. 魅力ある国産地域原料の発掘および国産原材料を使用した商品開発
- エ. 総合営業体制の構築と実需者への営業強化による販売拡大
- オ. 生産コスト等を考慮した適正な価格形成および生産者所得の安定・向上

### ③海外事業展開

- ア. 肥料・飼料など必要な海外原料の安定調達・確保
- イ. 国内の生産基盤維持に向けた輸出事業の拡大
- ウ. 新たな事業機会の創出に向けた体制整備

### ④地域共生・地域活性化

- ア. 地域活性化に向けたネットワーク基盤づくり
- イ. 地域社会に必要不可欠なエネルギー・生活サービスの提供
- ウ. 組合員サービスの充実に向けた取り組み強化

### ⑤環境問題など社会的課題への対応

- ア. 地域性や農業現場の実態をふまえた環境負荷低減の取り組み
- イ. 脱炭素化の実現に向けた環境対策の取り組み
- ウ. 持続可能な農業の確立に向けた消費者理解の醸成

### ⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

- ア. JA営農・経済事業への支援強化
- イ. 全農グループ経営の強化
- ウ. 本会の事業遂行に必要な人材育成とガバナンス強化

### 災害等の危機管理への対応

- ア. 激甚化する自然災害からの復旧支援と災害への準備・対応
- イ. 重要家畜疾病対策の強化

## 愛媛県本部 令和6年度計画

### I. 最重点施策

愛媛県本部では、第38回JA愛媛県大会においてJAグループ愛媛のめざすべき姿として決議された「持続可能な農業の実現」「豊かでくらしやすい地域共生社会の実現」「協同組合としての役割発揮」にもとづき、「持続可能な農業と食の提供のため『なくてはならない全農』であり続ける」という全農グループのめざす姿の実現に向け、中長期・重点的に取り組む事業戦略を基本とした、事業別JA営農経済事業の再構築に取り組みます。

な産地づくり」に取り組みます。また、畜産事業における将来ビジョン「ありたき姿」の構築に向けて「愛媛県における生販一体型事業の検討・実証」を協議するなか、新たな事業モデルの確立に取り組むとともに、生産者への展開をはかり持続可能な畜産事業体制の整備をはかります。

### 生活事業

豊かでくらしやすい地域共生社会をめざし、農業者の所得増大に向け、県内農畜産物の認知度向上・消費拡大をはかるため、県内農畜産物を使用した商品開発や新たな販路開拓に向けてのスキームの検討およびEC事業を活用した情報発信の強化に取り組みます。あわせて、農畜産物直売所とコンビニエンスストアとの一体型店舗の運営による地産地消と地域住民の利便性向上につとめます。

また、地域のくらし支援強化や基盤の維持」に向けて、「担い手と労働力確保」に視点を置いた支援体制、「環境負荷低減と農業DX・スマート農業」等新たな技術が導入できる生産体系の実証をおこなう広域営農センター構想と、「集出荷施設の共同利用」「県域物流体制」の効率化をすすめ、経済施設の広域利用による「持続可能

消費地への効率的な物流体制の構築により販売拡大をめざします。

また、生活・エネルギーインフラの維持による安心して暮らせる地域社会の実現に向けて取り組むとともに愛媛県本部グループ全体の健全経営を確立し、愛媛農業の振興支援に取り組みます。

準化に向けた広域指導体制の検討をすすめます。

(4) 「担い手営農サポートシステム」の活用により、TAC活動の活性化をはかり、低利用・未

利用経営体への訪問活動強化による系統事業拡大に取り組みます。

(5) JA経営基盤強化に向けて、全農広域構想の具体化と事業の分析を通じて、JA域を越えた協議や取り組みをサポートします。

### II. 事業別実施具体策

#### 1. 営農畜産振興部

(1) 新規就農者の確保に向け、「県域担い手サポートセンター」による各種就農イベント（就農・就業相談会、就農体験ツアーア等）の拡充に取り組みます。

(2) 労働力の確保に向け、県政やパートナー企業と連携しアプリケーションソフトなどを用いた新たな確保体制の構築や、周年での労働力確保に向け、JA域を越えた選果場要員の共同利用体制づくりをすすめます。

(3) 核となる大規模経営体を想定した機械化、ZIGIS、ザルギー事業をめざした事業構築および施設の再編・整備支援に取り組みます。

(4) 生販一体型事業の検討・実証に向けた継続協議をすすめるとともに、新たなモデル事業として販売会社の直営農場運営化に取り組みます。

(5) JA・組織アピールを通じて、JA・組織アピールをすすめます。

(6) 協同組合間・異業種との業務提携など、新たな価値の創造に向けたアライアンスの取り組みを通じて、JA・組織アピールをすすめます。

(7) 県内畜産指導体制の一元化に向けた具体策を策定するとともに、生産者やJAへ向けた経営モデルの事業説明をおこないます。

(8) 生販一体型事業の検討・実証に向けた継続協議をすすめるとともに、新たなモデル事業として販売会社の直営農場運営化に取り組みます。

(9) 畜舎賃貸事業の進捗管理や後継者経営体の育成・支援、県内畜産企業の新規養豚農場との連携をはかり、既存農場の再編整備協議を継続してすすめると

耕種・畜産事業（営農畜産振興部・園芸農産部・生産資材部）

「農業者の所得増大」「農業生産基盤の維持」に向けて、「担い手と労働力確保」に視点を置いた支援体制、「環境負荷低減と農業DX・スマート農業」等新たな技術が導入できる生産体系の実証をおこなう広域営農センター構想と、「集出荷施設の共同利用」「県域物流体制」の効率化をすすめ、経済施設の広域利用による「持続可能

### JAグループ会社

J A グループの会社として愛媛県産農畜産物の価値向上ならびに

もに、生産基盤の確保に取り組みます。

(10) 「ふれ愛・媛パーク」認定農場の経営安定対策として、ハイコープ種豚の安定供給をはかり、個別検討会の定期開催やWeb PICS（養豚生産管理システム）の活用促進に取り組みます。

(11) 伊予牛「絹の味」の生産振興のため、安定した素牛供給をはかるとともに、野村臨時家畜市場の定期開催や生産者協議会と連携した事業推進に取り組みます。

(12) JA全農ミートフーズ(株)およびJAえひめアイパックス(株)が目標とする肉豚172千頭、肉牛2・5千頭の肉畜集荷に連携して取り組むとともに、家畜伝染病予防法にもとづいた防疫対策を強化し、各JA・県行政・本所と連携した生産基盤づくりに取り組みます。

とともに、令和7年産より業務用多収米から主食用米に転換する「にじのきらめき」の作付拡大に向けた推進をおこないます。普通期米は「にこまる」「ひめの凜」への品種集約をすすめます。作期分散が可能な業務用多収米は「にじのきらめき」「ほしじるし」「ちほみのり」の栽培技術確立をめざすとともに、

全農と農研機構が共同開発した「ZR1」の実証試験をおこない適地適作につなげます。また、JA未利用・低利用生産者および法人への訪問活動を強化するとともに、生産者と実需者との結びつきを強固なものとするため、播種前契約の拡大に取り組みます。

(2) 麦類農産事業では、麦作生産基盤の維持と生産者所得向上のため、はだか麦と小麦の両輪による需要に応じた生産調整、基本管理の徹底による品質・収量の安定化、販売にかかる流通コストの削減につとめます。また、生産量日本一を誇るはだか麦产业基地を維持拡大するため、実需者・加工メーカーとの連携による新商品の開発など、需要の創出に取り組みます。

(3) JAグループの「一元集荷・

## 2. 園芸農産部

(1) 米穀事業においては、愛媛県農業再生協議会が設定した「生産の目安」を目標に需要に応じた品種別作付振興をすすめます。早期米は高温障害による品質低下が著しい「あきたこまち」



「愛媛県産かんきつ」東京での店頭販促活動

## ◆特集：JA全農・愛媛県本部「令和6年度事業計画」

販売体制」を構築するため、「米麦施設の構想」にもとづいたJAの既存施設の統廃合と改修構想の具体策を策定するとともに、保管施設の安定確保に向け、関係機関と協力した共同保管倉庫の新設やリノベーションの取り組みをすすめます。

(4) 自然災害や異常気象に左右されない生産量の安定維持をはかるため、温州みかんの樹勢回復対策および高品質安定生産対策（反収および正品率の向上）に取り組みます。また、土壤診断結果にもとづいた石灰資材および腐食有機物資材の施用率向上による土壤環境の改善をはかるとともに、マルチ被覆、着果調整資材、浮皮防止対策資材の普及・定着に取り組みます。

(5) 県オリジナル品種は、JA・行政と連携し生産振興計画にもとづく产地化をはかり、県下統一した基準・施策の実践によりブランド確立に取り組みます。また、令和6年産より本格販売の愛媛果試第48号（紅プリンセス）は、生産面は「栽培技術確立」、販売面は「県域基準の統一化」をめざし、さらに市場・県行政と連携して販促を実施することで、早期のブランドイングの確立に取り組みます。

(6) 市場流通を基本とした卸売会社とのパートナー化をはかり、パートナー市場10社と連携し、有利販売に向けた予約相対取引を推進します。また、企画販売推進による買取販売を強化し、販路拡大をはかるとともに、県行政と連携した輸出事業に取り組みます。

(7) 県産果実の消費拡大・購入促進をはかるため、販売協力店とタイアップした企画型販促（デイスプレイ・販売コンテストなど）を充実し、さらに「オレンジロード」の認知度向上として、柑橘と愛（エディング）をテーマに結婚式場と連携し、オレンジロードおよび果実の情報発信により消費者への効果的なPRにつとめます。

(8) 将来を見据えた選果場関連施設の再編、物流の合理化・効率化をはかるため、「愛媛チーム」として、JA域を越えた広域選果および共同選果や、新たな運行手段の模索、T11パレット導入に向けた実証試験（出荷規格統一）に取り組みます。

(9) 新たな県域販売に向けた県域販売センター体制整備、販売先の集約、販売実証などをおこなうとともに、JA域を越えた既存集出荷施設の広域利用と新た

(10) 重点品目の振興策強化をすすめ、ロットの維持・拡大による販売力強化に取り組みます。

(11) 生産基盤の強化、反収向上をめざし、栽培から経営までの実践指導をおこなうことができる人材育成に取り組みます。

(12) 市場や業務・加工ニーズを的確にとらえ、選ばれる产地を作り上げていくとともに、流通コストの削減や省力化をすすめ、生産者手取りの向上と安定化に取り組みます。

(13) 愛媛野菜のファン増大に向けた関西圏でのフェアの実施や「顔の見える产地」づくりをすすめ、効果的な消費宣伝活動に取り組みます。

(1) 生産資材部

肥料事業においては、化成肥料・果樹配合肥料の銘柄集約はかり、製造の効率化とパレット物流による配達体系の見直しなどによるトータルコストの低減に取り組むとともに、肥料の安定供給体制の維持・強化につとめます。また、土壤診断結果にもとづいた処方箋説明による施肥指導の徹底と担い手への適正施肥指導の強化と土づくり推進の面展開による高品質安定生産支援に取り組みます。

(2) 農薬事業においては、病害虫発生予察をもとにした的確な防除指導の徹底と担い手直送規格・大型規格の取り扱い拡大、ホームセンターなどの市場価格調査結果をふまえた弾力的な価格設定をおこない、資材コスト低減に取り組みます。

また、無人航空機（ヘリ・ドローン）を活用した防除作業受託による労働力支援の拡充に引き続き取り組みます。

(3) 物流・店舗関係においては、中四国広域農薬物流センターを核とし、農家、JAからWeb発注の運用拡大による効率的なJA・農家配送の確立について協議を重ね、物流サービスの向上とトータル物流コストの低減

をめざします。また、県内JA資材店舗のあり方について、JAと協議をすすめます。

スの向上・収支改善などの体制構築に取り組みます。

(4) 園芸資材事業においては、重

点銘柄を中心とした被覆加工品（農ビ・農PQ、タイベックシート等）の予約推進強化および需要結集大口引取りの促進による

資材コスト低減に取り組みます。また、ハウス補強対策、省力化システムなど新技術の提案・普及に取り組みます。

(5) 農グループ唯一の直営工場としての機能性を最大限發揮するとともに、ISO9001・2015にもとづく品質管理体制の強化

により、安全で高品質な段ボールの安定供給と顧客満足度のさらなる向上につとめます。

また、販売資材全般にわたり多様化する包装ニーズや流通の変革に対応し、省力化・効率化・低コスト化に繋がる付加価値商材の企画提案活動に積極的に取り組みます。

(6) 農機事業においては、「JA・県域農機一体運営事業」未参画JAへの段階的な参加を推進し、「専任管理者の設置による事業管理」「推進・修理担当者の分業による効率的なサービス提供」などにより、農家サービ

事業の県域運営一体化に向けた方向性の検討をおこなうとともに、葬祭関連商品の取扱拡大に取り組みJA葬祭事業の体制を強化します。

(5) エネルギー環境変化に対応した拠点配置最適化提案による事業基盤強化をはかるとともに、地域の暮らし・営農に必要なエネルギーの安定供給につとめます。

(6) 施主代行方式による事業展開のもと、地域に適した農業施設等産地インフラ整備・再編への支援に積極的に取り組みます。

化に取り組みます。また、グループ会社の健全経営に向けた指導・支援に取り組みます。

#### (1) 4. 生活部

(1) 県内産農畜産物消費拡大に取り組むため、商品開発および販路開拓や新たな商流の検討をすすめ、地産地消・地域農業の振興に寄与するとともに、JAタウンを活用したEC事業の取り組みを強化し、県内産農畜産物の情報発信と安心・安全を消費者にお届けします。

(2) 拠点型事業・県内産農畜産物販売拠点として、農畜産物直売所とコンビニエンスストアとの一体型店舗「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」の運営強化により、地産地消ならびに地域住民の利便性向上につとめるとともに、ファミリーマートへの県産食材提案による商品化により県内産農畜産物の消費拡大に寄与します。

(3) 買物支援・高齢者・地域サービス対応など組合員・利用者ニーズに対応する移動購買車やJA生活店舗の収支改善ならびにサービス事業の拡充に向け、外部提携を軸とした事業提案によりJA生活事業の利便性・収益の向上を支援します。

葬祭協議会活動を通じ、葬祭

#### (3) 5. 管理部

(1) コンプライアンス意識の浸透・定着およびリスク管理対応の強化に継続して取り組み、人材育成強化に重点を置きます。また、関係部署と充分な協議・検討をおこない、より効率的かつ実効性のある態勢の確立に取り組みます。

(4) 事業検討会などを通じて各事業の課題を共有するなかで、課題解決に向けたサポート機能を発揮し、事業計画の達成につとめます。あわせて、将来的な収支シミュレーションをふまえ中期的な視点で事業を検証し、持続可能な経営基盤の確立・強

#### 愛媛県本部 令和6年度取扱高（総供給販売高）計画

（単位：百万円、%）

事業	6年度計画	5年度計画	前年計画比
園芸農産事業	46,909	46,769	100
畜産事業	709	818	87
生産資材事業	12,913	13,260	97
生活関連事業	13,816	11,999	115
合計	74,347	72,846	102



「愛媛県産野菜」野菜の日、店頭販促活動

## グループ会社 令和6年度売上高計画

(単位：百万円)

会 社 名	6 年度計画	5 年度計画
(株) えひめ飲料	16,257	14,966
J A えひめアイパックス(株)	3,709	3,602
J A えひめフレッシュフーズ(株)	4,046	4,270
(株) ひめライス	2,937	2,931
J A えひめエネルギー(株)	2,618	2,736
(株) えひめフーズ	634	630
J A えひめ物流(株)	6,448	6,852
合 計	36,649	35,987

3. 要員計画  
事業環境に対応した適正な要員体制をはかることとし、会内要員は6年度期首で164名とします。

2. 施設投資計画  
施設取得計画は段ボール工場の機械設備更新や中央LPガスセンターの充填機更新、推進車の更新などを計画します。

1. 取扱計画（総供給販売高）  
農業生産基盤の弱体化がすすむ中、持続可能な農業と食の提供の実現に向け、生産振興の取り組みによる農業産出額の増加、新技術・新商品の開発、生販購一体の事業運営を通じた系統利用率の向上をはかり、取扱高（総供給販売高）は743億円とします。

(5) J A・組合員・消費者に全農グループ事業をより理解してもらうため、各事業部門と連携して県産農畜産物の消費拡大に向けた広報活動を強化し、SNSによる情報発信や安定生産・品質向上に向けた生産情報提供を拡充します。

## III. 経営計画

# 人事異動

人事異動は、令和6年度期首職員数201人中、異動・昇格者総数は52名です。(課長・審査役以上の異動・昇進は以下のとおり)。

## 人事異動（令和6年4月1日付）※課長・審査役以上

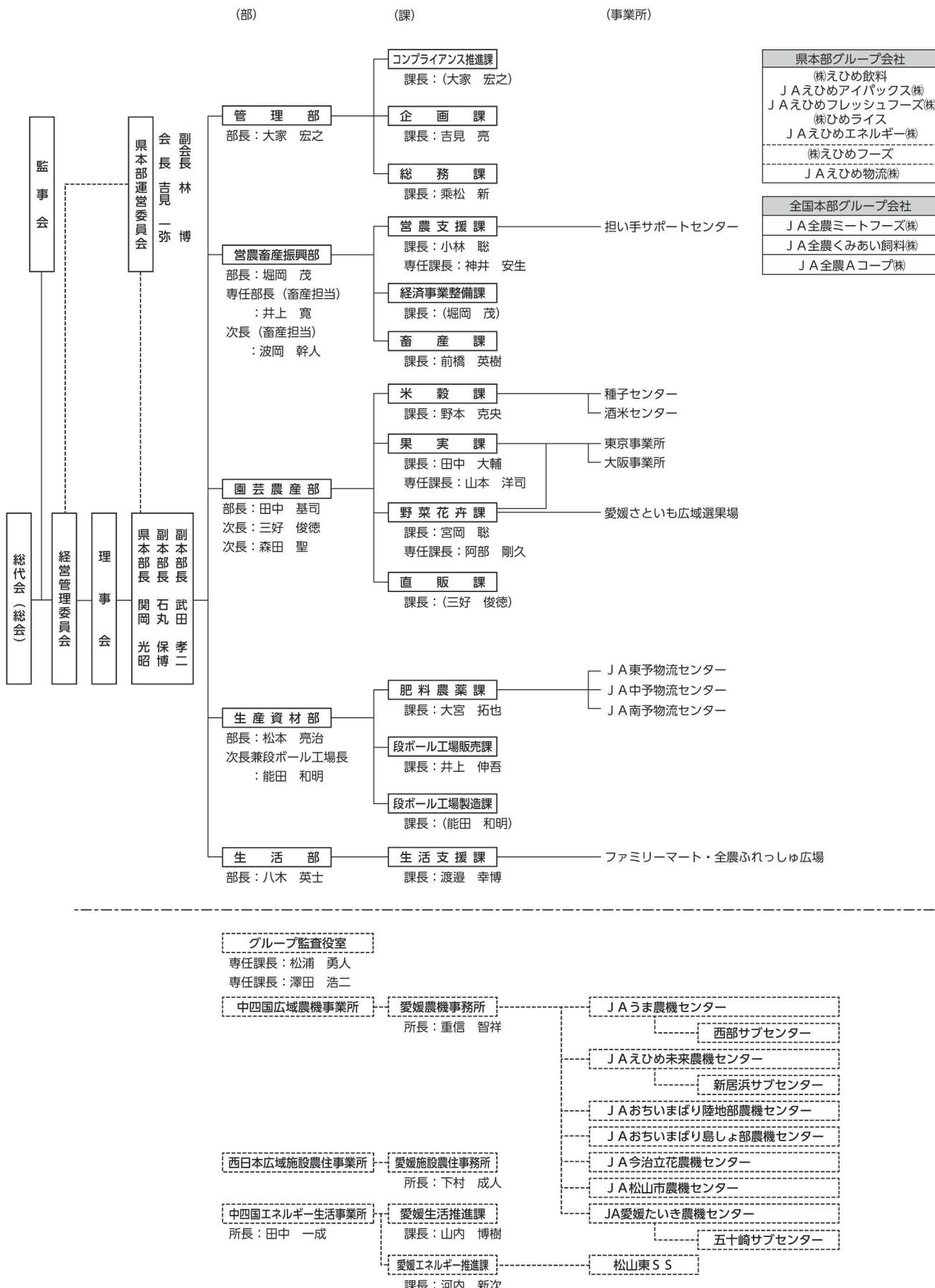
氏名	新任部署	旧任部署
石丸 保博	(審議) 副本部長 (管理・畜産・生活担当)	(監) 管理部長
大家 宏之	(監) 管理部長 コンプライアンス推進課長 事務取扱	(監) JAえひめエネルギー株式会社 出向
田中 基司	(監) 園芸農産部長	(審) 園芸農産部次長
松本 亮治	(監) 生産資材部長	(監) 園芸農産部長
八木 英士	(監) 生活部長	(監) JAえひめ物流株式会社 出向
長尾 充博	(監) JAえひめエネルギー株式会社 出向	(監) 生産資材部長
波岡 幹人	(審) 営農畜産振興部次長 (畜産担当)	(審) 園芸農産部次長 東京事業所長 事務取扱
三好 俊徳	(審) 園芸農産部次長 直販課長 事務取扱	(審) 直販課長
森田 聖	(審) 園芸農産部次長 東京事業所長 事務取扱	(審) 野菜花卉課長
能田 和明	(審) 生産資材部次長 段ボール工場長 段ボール工場製造課長 事務取扱	(審) 営農支援課長 扱い手サポートセンター長 事務取扱
小林 聰	(審) 営農支援課長 扱い手サポートセンター長 事務取扱	(副審) 肥料農薬課長代理
宮岡 聰	(審) 野菜花卉課長	(副審) 野菜花卉課長代理
渡邊 幸博	(審) 生活支援課長	(審) 生活支援課長 ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場店長 事務取扱
下村 成人	(審) 本所 施設農住部 西日本広域施設農住事業所 愛媛施設農住事務所長	(審) 生産資材部次長 段ボール工場長 段ボール工場製造課長 事務取扱
田中 一成	(審) 本所 総合エネルギー部 中四国エネルギー生活事業所長 本所 くらし支援部 中四国エネルギー生活事業所長 兼務	(審) 本所 総合エネルギー部 中四国エネルギー生活事業所 愛媛エネルギー推進課長
山内 博樹	(審) 本所 くらし支援部 中四国エネルギー生活事業所 愛媛生活推進課長	(副審) 本所 くらし支援部 中四国エネルギー生活事業所 愛媛生活推進課長
本田 庄三	(審) JAえひめフレッシュフーズ株式会社 出向	(審) コンプライアンス推進課長

【表の見方】職能資格呼称等は略称表記しています。

(審議)=審議役、(監)=監理役、(審)=審査役、(副審)=副審査役

# 全農愛媛県本部 2024年度（令和6年度）機構図＆ライン管理職等配置

令和6年4月1日現在 (5部14課10事業所)





## 音楽と農業の蜜月

音楽と野菜、特に楽曲制作と調理には共通点があると思っている。それは「手をかけるほどにまazくなる」ということ。青菜は茹でるか、炒めるかだけで十分味が出る。取材でいただいた旬のキユウリは塩、もしくは味噌をつけてかじれば夏の風味が口の中で踊る。大きく切った野菜を鍋にがさりと移し作る味噌汁は、インスタ映えこそしないが食卓に意外な充実感と栄養素をもたらす。楽曲制作の現場においても同様で、手をかけやすい楽曲（野菜）はありながらも、基本的には「いかにシンプルにするか」が命題のひとつである。また、アルバム制作にこと関しては毎日の食卓と似ていて、一汁三菜のような調和のとれたバランス感覚が必要になってくる。

で、次の共通点は「即興性」だ。パ

ターンには収まらない創造性が、素晴らしい結果を生み出すことがある。この即興に必要なのが目によるコミュニケーション、アイコンタクトだ。経験や知識、感覚を研ぎ澄ませ計算された成果物は確かに目がもたらしてくれる。以前取材で生産者に「野菜の感情を理解できますか？」と質問されたことがある。会話を紐解くに、なるほど、自分で野菜とコミュニケーションをはかり、「そこにスペースを作つたから大きくなよ」と野菜に伝達し、生育を大きく見通すことができるのか。この目は近年の課題である生育不順をも見渡し、この目とは即興の大いなる武器だと感じる。で、この分野で音楽との共通点を探つてみるとある言葉を思い出す。「目で聞き、耳で見る」だ。耳が重要と思われがちな世界でサウンド

# 中岡 理よういち

RYOUICHI NAKAOKA

### ■プロフィール■

1982年5月4日、愛媛県生まれ、松山市在住。愛媛県立伊予高等学校卒業。

高校2年の頃、ロックバンド「ジャパハリネット」を結成。2004年、日本ゴールドディスク大賞で「ニューアーティストオブ・ザ・イヤー」受賞。今年・2024年に結成25周年を迎える。

現在は、バンド活動と並行し、タレントやMC（番組進行者）として活躍。他、動画制作、CM・番組ナレーション業、等。

### 【出演番組】

テレビ愛媛「ふるさと絶賛バラエティいーよ」

FM愛媛「えひめまるごと15分旬感えひめチュレ」、「10代徹底応援番組力モ☆れでい★Night!」、「ジャパハリネットのハリハリラジオ」

【その他】

アシング（ルアーで釣り）メーカー 「株式会社34（サーティフォー）」スペシャルアンバサダー

まさきオフィシャルサポーター（伊予郡松前町）

趣味は、歴史探求と料理、釣り。休日はあてもなくドライブし、ご当地の美味しいものを食べること。

座右の銘、なし。好きな言葉は、丁寧な暮らし。

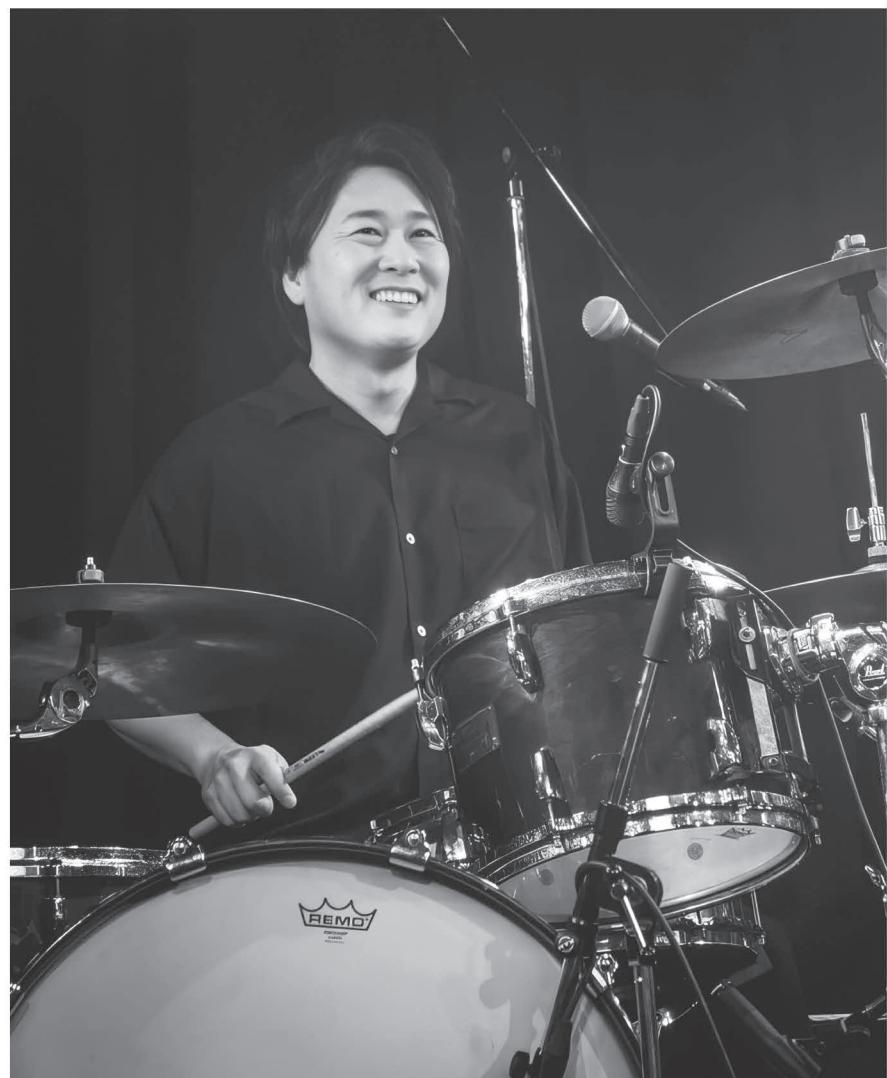


▲ブロッコリー農家を取材する中岡さん。FM愛媛「えひめまるごと15分旬感!えひめチュレ」にて

エンジニアに言われた言葉が今でも胸に沁みている。目で聞くとは、相手のしたいこと、して欲しいことを目で聞き、耳で見ると、その結果を受け止め、線とすること。例えばバイオリンやピアノ。旋律を有する楽器は点だと思われがちだが、響きと振動が繋がり線となっているように、生かし生かされあっている。しかし、未熟者である筆者には、答えを聞けるまでに及ばず。言葉をもったた二十年後地点の自分なりの解釈になること、ご容赦いただきたい。とは言え、この即興のタイミング

グは、目と手による判断に委ねられている。そう考えると生産者の「目力」はすごい。目が大きいとかではなく、目から感じとる情報が豊かだと感じざるを得ない。

話は逸れるが、農作業とNHKのアンテナ修理工を営んでいた祖父も目を使つた表現が豊かな人だった。しかし「孫には優しいじいちゃん」像には程遠く、挑戦的な姿勢で孫に向かうのである。泥つき野菜を洗う時は蛇口から出る水の勢いを利用すれば野菜が傷まらず、栄養も確保できる。孫が魚を釣つ



▲ロックバンド「ジャパハリネット」ではドラムを担当。「ジャパハリネット」は4月から7月、コンサートツアーを行う。(愛媛県内は松山、西条、今治にて)

て喜んでいると、始まるのは血抜きの授業。言わば命の授業である。「知識に無駄はない。無駄にするのは人間」

それが筆者の価値観構築に大きな影響を与えている。古臭いと言われるのではなく、無駄はない。無駄にするのは人間が口癖だった祖父らしく、不器用ながら生活を豊かにする問答が多かった。それが筆者の価値観構築に大きな影響を与えてもらっているとも、今なら言える。もしかすると、祖父はバラエティー寄りのクイズ番組のようなニュアンスで出題していたのかもしれない。そういう目と口調をしていた記憶もある。なで面白く感じた部分もあるが、当時の筆者にとっては笑えるものばかりではなかつたが、祖父の戦争経験も相まって、現実味を帯びている問答に心躍らせていたのはいい思い出である。

音楽と農業を比喩する人だつた。そんな祖父の言葉を借りて、締めに向かいたい。「知識が前へ進むたび、自分の存在する謎に向き合うことになる」という言葉。本の虫だった祖父らしく、物理学者のマックス・プランクの言葉なのは後で知つたのだが、言い得て妙である。過去の集大成ではなく、この先をどう生きるか。そんな明るい時代を音楽も農業も叶えられることを切に願いながら、今回は締めたいと思う。



THE

# ねつとわーく

「えひめの『愛』でぞこてるよ。」  
県産品愛用運動・消費拡大運動を展開！

生活  
支援課

J A グループ 愛媛  
は、令和6年4月5日から、「県産品愛用運動」と「消費拡大運動（J A グループ 愛媛 J A・JA 愛媛中央会・JA全農えひめ主催）」を実施しています。

この運動は、県内産主要農畜産物の消費拡大により、地域農業の振興とともに、良質で安全な県産品の愛用を進め、県民の健康増進をめざすため毎年取り組んでいるものです。ジュースの愛用運動は8月末まで、お茶は12月末までの期間限定となっています。是非ご賞味ください。

**えひめ100みかんいよかん混合**  
愛媛県産の温州みかんといよかんを主体にブレンドした、濃い果汁感が楽しめる果汁100%ジュースです。

**愛媛の味わい柑橘100**  
愛媛県産のポンカンといよかんを主体に愛媛の柑橘をブレンドした、

深みのある爽やかな味わいの果汁100%ジュースです。

**愛媛の不知火**

愛媛県産の不知火を使用した、濃厚な甘みと程よい酸味を楽しむことができる果汁30%飲料です。

**POM 塩と愛媛のかんきつ**

愛媛県産河内晩柑と伯方の塩を使用した水分・塩分補給、暑さ対策飲料です。

**POM ポンスパークリング**

ポンジュースの新しい美味しさが味わえる大人向けの果汁30%炭酸飲料です。

**POM 愛媛河内晩柑ゼリー**

柑橘王国「愛媛」の魅力溢れる逸品柑橘を使用したゼリー飲料です。

**愛媛の特煎茶**

愛媛県産の茶葉を100%使用して、心地よい苦味とさっぱりした後味の緑茶です。

**はだかんぼう麦茶**  
生産量日本一の愛媛県産はだかんぼう麦茶を100%使用した、昔ながらの味と香りが特徴の麦茶です。

いずれの商品も、例年と同様に数量限定で取り扱っています。運動期間中でも品切れの際には販売を終了しますので、早めのご注文をお願いします。

毎年県産品として県内外への贈答品に大変好評であり、今年も贈答需要に対応できるよう宅配も受け付けています。詳しくは最寄りのJAにお問い合わせください。

令和6年度「えひめみかん・いよかんジュース  
県産品愛用運動・お茶消費拡大運動」価格表

(単位:円)

品名	規格(ケース)	参考組合員価格(税込)
えひめ100みかんいよかん混合	1ℓ×6本	2,880
愛媛の味わい柑橘100	1ℓ×6本	3,120
愛媛の不知火	1ℓ×6本	2,670
POM 塩と愛媛のかんきつ	490ml×24本	2,880
POM ポンスパークリング	410ml×24本	2,880
POM 愛媛河内晩柑ゼリー	295g×24本	2,880
愛媛の特煎茶	500ml×24本	3,240
はだかんぼう麦茶	500ml×24本	3,240



## 愛媛いよかん大使による消費宣伝キャンペーンを実施！



田中副知事（中央）と愛媛いよかん大使ら



さっぽろ雪まつり会場で愛媛いよかんの旬到来をアピール



各地の市場や仲卸を訪れ、愛媛いよかんの拡販協力を訴えました



店頭での販促活動を通じて愛媛いよかんをPR

### 果実課

J A全農えひめ果実課は、全国生産量の9割を占める愛媛いよかんの本格販売にあたり、今年も愛媛いよかん大使による消費宣伝キャンペーンを実施しました。

り、1月26日には、JA全農えひめの関岡光昭県本部長と愛媛いよかん大使らが田中英樹副知事を表敬訪問しました。関岡県本部長は「28日からの消費宣伝キャンペーンで愛媛いよかん大使とPRに努めますので、ご支援よろしくお願いします」と協力を呼び

掛け、いよかんを試食した田中副知事は「今年のいよかんは糖度が高く、程よく酸味があり、ジューシーでとてもおいしい」と絶賛しました。キャンペーンは毎年行っており今回が48回目。大使らは、1月28日、29日まで首都圏、2月1日～6日まで関西圏・札幌を回り、市役所・市場への表敬訪問、店舗でのPR販促活動、さっぽろ雪まつり会場でのいよかん無料配布などの消費宣伝活動を行い、「色よし・味よし・香りよし」

(前年比92%)。果実品質については、糖酸は高く食味は良好で、美味しい伊予柑に仕上がっています。JA全農えひめ果実課は、伊予柑の消費拡大に向け、「愛媛いよかんいい予感」をコンセプトにPR・消費拡大に努めています。

3拍子揃った日本一の愛媛いよかんをアピールしました。なお、県内JAの伊予柑販売計画量(1月10日時点)は、11,700トン

えひめ米品質向上推進大会

## 良質米共励会表彰など20名を表彰



講演をする黒田さん



受賞した皆さんと関係者ら

愛媛県米麦振興協会とJA愛媛米麦生産者組織協議会などは12日、JAや生産者、行政関係者ら約100人を集め「令和5年度えひめ米品質向上推進大会」を伊予市で開催しました。

大会は、県内の米生産の持続的発展に向けた取り組みを奨励し、生産者をはじめ関係機関・団体が一体となって需要に即した米づくりとえひめ米の品質向上を図ることを目的に、毎年開催しています。

今大会では、米、麦、大豆の優良生産者表彰のほか、令和6年産米作付計画の基本的な考え方や「ひめの凜」生産振興とブランド戦略について確認しました。また記念講演として、愛媛県病害虫防除所の黒田剛氏に、「発生予察から見えてくる水稻病害虫と近年気になる病害虫」について講演していただきました。

愛媛県米麦振興協会とJA愛媛米麦生産者組織協議会などは12日、JAや生産者、行政関係者ら約100人を集め「令和5年度えひめ米品質向上推進大会」を伊予市で開催しました。

大会は、県内の米生産の持続的発展に向けた取り組みを奨励し、生産者をはじめ関係機関・団体が一体となって需要に即した米づくりとえひめ米の品質向上を図ることを目的に、毎年開催しています。

今大会では、米、麦、大豆の優良生産者表彰のほか、令和6年産米作付計画の基本的な考え方や「ひめの凜」生産振興とブランド戦略について確認しました。また記念講演として、愛媛県病害虫防除所の黒田剛氏に、「発生予察から見えてくる水稻病害虫と近年気になる病害虫」について講演していただきました。

また、愛媛県農産園芸功労知事

表彰ほか、多収米収量コンテスト優秀賞＝高石和則（えひめ中央）、参川忠男（周桑）、川原博行（同）、岡本省三（えひめ未来）、酒井優行（えひめ中央）◆同【集団の部】

▽最優秀賞＝山内正紀（周桑）▽優秀賞＝高石和則（えひめ中央）、参川忠男（周桑）、川原博行（同）、岡本省三（えひめ未来）、酒井優行（えひめ中央）◆同【農家の部】

カツコ内はJA名または市町名）。ヒカリ・あきたこまち】部門▽優秀賞＝藤原康芳（周桑）、山元秀徳（ひがしうわ）、田坂邦夫（えひめ未来）◆同【農家の部】「ヒノヒカリ・にこまる・ひめの凜」部門▽最優秀賞＝中村集落営農組合（えひめ中央）◆麦作共励会

▽最優秀賞＝河野昌豊幸（えひめ未来）、西原昇（同）◆同【集団の部】▽優秀賞＝農事組合法人北川（周桑）◆大豆共励会【農家の部】▽最優秀賞＝清家純一（ひがしうわ）▽優秀賞＝酒井馨一（同）◆多収米収量コンテスト▽最優秀賞＝藤井省三（えひめ中央）▽優秀賞＝農事組合法人増穂生産組合（えひめ南）、山内正紀（周桑）◆農産園芸功労知事表彰【水田農業部門】＝日野絢嗣（西条市）、竹中義廣（西予市）

## 「いよつこい」農業講習会



熱心に聞き入る参加者



スライドを交えながらの講習

J Aえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよつこら」は、1月26日、松前総合文化センターにて「農薬について学ぼう」と題した講習会を実施しました。毎年、年2回実施しており、今年度は2回目となります。

この講習会は、行政から農薬使用基準の遵守について呼びかけられているほか、安心・安全な農産物を消費者にお届けするためにも、出荷農家に農薬の正しい情報を知つてもらおうと実施しているのです。

講師は、J A全農えひめ肥料農

割、農薬の使用回数の数え方、農薬の適正使用について、農薬の不適正使用を防ぐには、飛散防止対策と使用農薬の記帳徹底等について説明がありました。

講習会には、J A関係者、出荷農家の方々約50名が参加され、メモを取りながら、熱心に聞き入っていました。

参加した農家は「いつも使用している農薬について改めて勉強になつた」「今後もルールを守り安心・安全な農産物をお届けしたい」と話していました。

## かんきつ産地の体質強化と生産基盤の強化

J A愛媛中央会、J A全農えひめ、J Aにしうわは、1月30日に愛媛県庁を訪問。かんきつ選果場の再編・統合に係る支援について中村時広知事に要請書を提出しました。

県内のかんきつ選果場

は、集出荷経費の削減を図り産地販売力を強化するため、愛媛県果樹農業振興計画が掲げられています。現在20か所ある施設を、令和12年までに10か所へ集約することを目指すすめています。

昨年4月にJ Aにしうわが県内J Aの先陣を切つて、みつる共選場と伊方選果場の再編・統合を決定し、県内初のAI選果機や物流の2024年問題に対応したパレット設備の導入により、集

を大幅に削減するなど、選果・流通の高度化を図ります。行政・農業者・農業団体等が一体となつてかんきつ産地の体質強化と生産基盤の強化に取り組むためにも、愛媛県独自の支援を求めました。



(左から) J A全農えひめ県本部長、中村知事、J A愛媛中央会西本会長、J Aにしうわ都築会長、J Aにしうわ小笠原理事長

## 愛媛農業の「目指すべき姿」に向けた取り組みについて意見交換

J A全農えひめは、県内JA代表者の声を事業運営に反映させようと、2月15日、JA愛媛で、令和5年度「系統経済事業意見交換会」を開きました。

会議には、県内JAの経営管理委員会会長、代理理事組合長・代理理事長のほか役員、全農本所から竹本尚史常務、愛媛県本部から吉見一弥運営委員会会长と部長以上の幹部職員、グループ会社の社長などが出席。令和6年度事業計画について説明後、意見交換を行いました。

吉見会長は、「令和6年度は2030年に向けて『なくてはならない全農』であり続けるという、目指す姿の実現に向けた中期3か年計画の仕上げの年になります。6つの柱、中でも、生産振興と地域共生・地域活性化、またJAグループ、全農グループの最適な事業体制の構築に向けた仕組みづくりをしていきたいと思います」とあいさつしました。



J A役員からは、「2024年物流問題に対応するため、様々な品目で運賃コスト削減に向けた輸送試験をお願いしたい」「国消国产の理解醸成を図るため、全農が中心となって学校給食に地元農産物を提供していってほしい」など意見が出されました。

JA役員からは、「2024年物流問題に対応するため、様々な品目で運賃コスト削減に向けた輸送試験をお願いしたい」「国消国产の理解醸成を図るため、全農が中心となって学校給食に地元農産物を提供していってほしい」など意見が出されました。

伊予高校とJA全農えひめ米穀課などは、松前町の商業施設工ミニフルMASAKIにて、2月18日、「はだか麦アラレ」など愛媛県産はだか麦を使った加工商品も販売しました。JA全農えひめは、これから

このイベントは、伊予高校の生徒たちが「はだか麦知名度UPプロジェクト」として、「家庭で愛媛県産はだか麦を常食として食べてもらいたい」と企画・立案したものです。当日は、伊予高校卒業生で現役専業主夫料理人のパパイズムさんによる調理で、「ゆで麦入り肉味噌の和風オムレツ」「ゆで麦入り肉味噌のカナッペ」「はだか麦グラタン」「はだか麦入りミネストローネ」の4つのレシピを試食提供しました。各レシピを先着100名に用意、大勢のお客様で賑わい大好評でした。試食したお客様からは、「はだか麦のプリプリ感がおいしい」といった

声が上がりました。



パパイズムさんによる調理実演

## エミフルMASAKIにて無料試食会・物販イベント開催!

また、「はだかんばう麦茶」「はだか麦のまろやか黒酢」「はだか麦あられ」など愛媛県産はだか麦を使った加工商品も販売しました。JA全農えひめは、これからも愛媛県産「はだか麦」の認知度向上と消費拡大に取り組んでいきます。

## JJA愛媛食糧指導員会と県、 合同研修により連携強化

JJA愛媛食糧指導員会と県は、2月16日、道後プリンスホテルで、第3回作物調査研究会及び食糧栽培技術研修会を開催しました。この研修会はJJAの営農指導員と県の普及指導員が合同で研修を行い、情報共有、栽培技術の向上と一体的な農家指導を行うことを目的としています。研修会には、県内JJAの食糧指導員のほか県関係など75名が出席しました。

JJA全農えひめからは、情勢報告、「にじのきらめき」の生産について報告しました。令和6年産は約55haの作付計画で、5年産からの増加面積は18haとなっています。今後はポスト「あきたこまち」として県下一体で栽培面積拡大を図る方針です。また、講師として愛媛県農林水産研究所主任研究員黒瀬咲弥氏が「愛媛県での主食米の多収へのアプローチ」と題し講演を行いました。

参加者からは「JJAと県の関係が親密になり相談しやすくなつた。現場の声が聞こえ、今後の食糧栽培にさらに力を入れていきたい」など、今後の活動に意欲を見せました。



JJA愛媛野菜生産者組織協議会とJJA全農えひめは、3月4日、松山市東本の児童養護施設・愛媛慈恵会に県内産いちご「紅ほっぺ」を60パック贈りました。

この取り組みは、社会貢献活動の一環として、ひな祭りの時期と合わせて毎年実施しています。同協議会とJJA全農えひめは、愛媛慈恵会を含めた松山市内3か所の児童福祉施設に県内産いちご200パックをプレゼントしました。

JJA全農えひめ野菜花卉課の職員は、「今が旬のいちごです。皆さんでたくさん食べてください。」と同施設の宮崎博文施設長にいちごを手渡しました。

同施設には、



いちごを受け取る宮崎施設長（右）

## 媛。パークランナーズと JJA全農えひめチームが 走る広告塔として力走！

「第61回愛媛マラソン（湯ったりオレンジロード）」が、2月11日に開催され、「ふれ愛・媛。パーク」生産者、JJA全農えひめ職員や関係者などが出場しました。

「媛。パークランナーズ」は、生産者と関係者など19人が「ふれ愛・媛。パーク」のロゴマーク入りユニフォームで参加。

「JJA全農えひめチーム」も13人が全農ゴとスープームギムギマンの入った揃いのユニフォームで参加し、それぞれ走る広告塔として、沿道の方々にブランドやJJA全農えひめをアピールしました。



媛。パークランナーズ



JJA全農えひめチーム

農の風景を読んで。甘いおいしい“せとか”をハウスで栽培していることは初めて知りました。同じ子を持つ親として27歳の宮川真治さんは一回りも二回りも大きく見えました。“かわいい子には旅をさせろ”と言いますがお父様も立派だと思います。

(今治市・阿部 徳子さん)

「せとかは、「清見」と「アンコール」と「マーコット」を交配して開発された品種です。独特の魅力的な香りと、房も果肉もやわらかく多汁で濃厚な甘みがあり袋ごと食べられるのが特徴です。ちなみに露地でも栽培されています。宮川さんの今後、私達も楽しみです！

特集を読んで。JAグループの肥料事業への取り組みがよくわかりました。いろんな補助を出してください、農家は助かります。

(八幡浜市・PN：コハチさん)

今後も全農グループとして、肥料価格の高騰を抑制し、安定供給を軸とした肥料供給事業を実施していきます。ご理解のほど、よろしくお願ひいたします。

ふるさとESSAYを読んで。一人ひとりが食品ロス問題に対して少しでも意識を変えていけばもっとより良い日本になっていくのかなと思いました。いまはSNSの影響を受けることが多いので、パパイズムさんの行動はすごく素晴らしいと思いました。

(今治市・PN：M.Aさん)

ESSAYの中でパパイズムさんは「食べ物は私たちの生活の一部であり、その背後には多くの人々の努力と情熱があります」と言っています。JA全農えひめは、その努力と情熱をより多くの方に伝えられるよう、消費宣伝事業に注力して参ります！

トピックスを読んで。がんばれ受験生！子どもが中学受験の時にいよかんを頂いてから、友人のお子さんが受験と聞いたらいよかんをプレゼントしています。ゴロあわせ！いいですね～

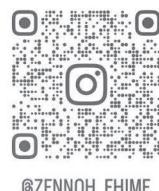
(今治市・PN：かずりんさん)

かなり昔にはなりますが、「えひめのいよかん、いいよかん！えひめのいよかんいいよかん、いいよかん、いいよかん！」

という歌詞でテレビCMを放映していました。YouTubeで検索されると見られるかもです（笑）。

## J A全農えひめ 公式インスタグラム

愛媛県内の農畜産物、本会の取り組み、イベント情報など随時更新しております！ぜひ、フォロー&いいねをお願いします♪



@ZENNOH\_EHIME

## 編集後記

2-3月号より表紙のイラストレーターが米田こよ実先生になりました。お気づきになりましたか？また一味違うあぐり～どになりました♪

さて、私は今年度から本会で発行している【果樹園芸（営農技術誌）】も担当することになりました！いろんなところで皆様とお会いすることになると思いますので、今後ともよろしくお願いします！

（彩恵）

## 今月の クイズ

このキャラクターの名前は？  
「スーパー○○○○マン」



### プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を5名様にさしあげます。



### 応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などを書き添えの上、ご郵送ください。

### 締切り

2024年5月15日（当日消印有効）

### 発表

「あぐり～ど」6-7月号で発表します。

### 当選者発表

2-3月号の答えは「愛媛で育む愛あるみかん あなたへ恩(いのち)を届けます」でした。たくさんのお便りありがとうございました。

厳正な抽選の結果、次の5の方に図書カード1,000円分をお送りします。

やまじ風さん（四国中央市）

N・Tさん（新居浜市）

オレンジ大好きさん（今治市）

ポン太さん（今治市）

海一さん（今治市）

NOW NOW

今月の素材  
春ばれいしょ



▶(上)いももちチーズ、(右)じゃがいもとベーコンのガレット、  
左アッショナルマンティエ

指導／愛媛調理製菓専門学校



春をまるごと味わえる  
ホクホク感がたまりませんっ

### アッショナルマンティエ

材料・4人分	※1人あたり約231kcal
春ばれいしょ	中2個
生クリーム	大さじ2
合挽肉	200g
赤ワイン	50cc
粉チーズ	200g
塩	適量
こしょう	適量
サラダ油	適量

#### 〈作り方〉

- ①ばれいしょは柔らかくなるまで湯がき、裏ごしをして滑らかなマッシュポテトを作り、生クリームと塩・こしょうを加え混ぜる。
- ②油をひいたフライパンで挽肉を炒め、塩・こしょうをし、赤ワインを加えて水分がなくなるまで煮詰める。
- ③グラタン皿に②、①の順に敷き詰め、上から粉チーズをまんべんなく散らす。
- ④200℃のオーブンで10分程度焼き、表面にこんがりとした焼き色をつける。

### じゃがいもとベーコンのガレット

材料・4人分	※1人あたり約103kcal
春ばれいしょ	中2個
ブロックベーコン	50g
① 粉チーズ	10g
片栗粉	適量
塩	適量
黒こしょう	適量
サラダ油	適量

#### 〈作り方〉

- ①ばれいしょは細切りにして水にさらし、ベーコンは小さめの短冊切りにする。
- ②ボウルに①のばれいしょを入れ、塩・こしょうをして軽く混ぜ、ベーコンと①を加えてさっくり混ぜる。
- ③熱したフライパンに油をひき、②を均一の厚さに広げる。
- ④両面をカリッと焼き上げ、食べやすい大きさに切る。

### いももちチーズ

材料・4人分	※1人あたり約135kcal
春ばれいしょ	中2個
バター	10g
① 塩	適量
こしょう	適量
② 牛乳	大さじ2
片栗粉	大さじ3~4
ピザチーズ	20g
サラダ油	適量

#### 〈作り方〉

- ①ばれいしょを柔らかくなるまで湯がき、裏ごしをして滑らかなマッシュポテトにする。
- ②①が熱いうちに①を加え混ぜる。
- ③②に②を加え、硬さを調整する。
- ④③を広げてピザチーズを包み込むように丸めていく。
- ⑤熱したフライパンに油をひき、④の両面に焼き色を付け、中のチーズが溶けるように焼く。

「おいしさ」にこだわり

甘みとコクが引き立つよう  
まろやかに仕上げました！



ポン  
ジュース

濃縮還元

みかんオレンジジュース  
果汁100%



おいしさにこだわり、  
酸素バリアボトル使用

えひめ飲料  
公式ホームページ▼



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地  
TEL: 0120-591-516 FAX: 089-923-1522

<https://www.ehime-inryo.co.jp>  
(通販専用) <https://www.pom-j.com>

**全国発送承ります。**

<b>えひめ100</b> みかんいよかん混合 参考組合員価格 2,880円(税込) 1,000ml×6本/ケース	<b>愛媛の味わい 柑橘100</b> 参考組合員価格 3,120円(税込) 1,000ml×6本/ケース	<b>愛媛の不知火</b> 参考組合員価格 2,670円(税込) 1,000ml×6本/ケース	<b>POM 塩と愛媛のかんきつ</b> 参考組合員価格 2,880円(税込) 490ml×24本/ケース	<b>POM ポンスパークリング</b> 参考組合員価格 2,880円(税込) 410ml×24本/ケース	<b>POM 愛媛河内晩柑ゼリー</b> 参考組合員価格 2,880円(税込) 295g×24本/ケース	<b>愛媛の特煎茶</b> 参考組合員価格 3,240円(税込) 500ml×24本/ケース	<b>はだかんぼう麦茶</b> 参考組合員価格 3,240円(税込) 500ml×24本/ケース
愛媛産の温州みかんといよかんを主体にブレンジした濃い果実感が楽しめる果汁100%ジュースです。				愛媛県のポンカンといよかんを主体に愛媛の柑橘をブレンドした深みのある爽やかな味わいの果汁100%ジュースです。			
愛媛産の不知火を使用した、濃厚な甘みと程よい酸味を楽しむことができる果汁30%飲料です。				愛媛県産河内晩柑と伯方の塩を使用した水分・塩分補給・暑さ対策飲料です。			
ポンジュースの新しい美味しさが味わえる大人向けの果汁30%炭酸飲料です。				ポンジューの魅力溢れる逸品柑橘を使用したゼリードリンクです。			
愛媛産の茶葉を100%使用した、心地よい苦味とさっぱりとした後味の緑茶です。				愛媛県日本一の愛媛産はだかんを100%使用した、昔ながらの味と香りが特徴の麦茶です。			

※宅配運賃について ●同一受注同一送付場所で5ケース以上の場合は、送料はお客様負担はありません。 ●5ケース未満の場合は、ケース毎に850円(税込)加算します。

お問い合わせ・ご注文は 県内各JA・JA全農えひめ へ

VOC  
FREE T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの  
インキを使用して印刷しました。

UD  
FONT



「JA全農えひめ」Instagram  
Follow Me!



「えひめの食」Instagram  
Follow Me!



あぐり～どはWEBでも読めます  
<https://www.zennoh.or.jp/e/about/information/>